2026 年 10 月 30 日

お客様各位

セイコーソリューションズ株式会社

SmartJumper Version 2.1.0 リリースノート

目次

Version 2.1.0　(リリース日：2026/10/30) 1

1　機能追加 1
- 1-1　RADIUS 認証対応 1
- 1-2　TACACS+認証対応 1
- 1-3　認証サーバーの冗長化 1
- 1-4　ターゲットの認証情報の管理 2
- 1-5　タグ機能 2
- 1-6　オンラインバックアップ 2
- 1-7　監査ログの外部 SYSLOG 送信 3
- 1-8　監査ログの記録対象の拡充 3

2　仕様変更 4
- 2-1　smartjumper コマンドの体系の変更 4
- 2-2　一覧のページごとの表示数の設定 4
- 2-3　稼働中のバージョンの表示 4
- 2-4　ターミナルのスクロールバッファー量の拡張 4
- 2-5　ターゲット検索の迅速化 5
- 2-6　LDAP 認証の設定とエラー表示の改善 5
- 2-7　使用中のターゲット・ユーザーの削除時のエラーメッセージの改善 5
- 2-8　CSV インポート時のエラーメッセージの改善 6
- 2-9　アクセスグループ割り当てルールの値の必須化 6
- 2-10　バージョンアップ時の監査ログの保持 6
- 2-11　画面の日本語表記の統一 6
- 2-12　ターゲットセッションログ一覧の全選択 6

3　不具合修正 7
- 3-1　接続フォームで前回使用の認証情報が反映されない問題 7
- 3-2　「プレーンテキスト（制御コードなし）」のログのダウンロードに失敗する問題 7
- 3-3　ツリー表示でターゲットディレクトリー名が隠れる問題 7
- 3-4　管理者が自分自身を削除した際のデータベースの不整合 7
- 3-5　確認画面の確定ボタンの表記 7
- 3-6　監査ログの認証プロバイダーの記録の統一 7
- 3-7　ターゲットセッション詳細画面のレイアウト崩れ 8

Version 2.0.1　(リリース日：2025/12/19) 9

1　脆弱性対応 9
- 1-1　脆弱性対応（React / Next.js：Remote Code Execution　他） 9

Version 2.0.0　(リリース日：2025/11/12) 10

1 機能追加 10
1-1 LDAP 認証機能 10
1-2 監査ログ機能 11
1-3 ターゲット接続時の ssh 公開鍵認証 13
1-4 制御コードが無いログのダウンロード機能 15
1-5 ユーザーセッションのログを出力する機能 15
1-6 SmartJumper 用 IP アドレスプールをユーザー指定可能にする機能 15
2 仕様変更 15
2-1 GUI 関連の機能改善 15
2-2 SmartJumper アクセス時のポート番号指定 15
2-3 タイムゾーンのマルチリージョンの対応 16
2-4 ターゲット接続アイドルタイムの変更 16
2-5 SSH 公開鍵認証の仕様変更 16
2-6 smartjumper コマンド実行時の条件の仕様変更 16
2-7 アクセスグループの編集条件の仕様変更 16
2-8 ターゲット作成時の最大セッション数 16
2-9 サポート外の鍵登録を防止 16
3 不具合修正 17
3-1 Telnet 接続時にログイン ID が自動で入らない問題 17
3-2 CLI 接続セッションの有効期限切れでのログアウト 17
3-3 ユーザー権限でのログ削除 17
3-4 ホーム画面の件数表示 17
3-5 SSH 公開鍵認証による接続が機能しなくなる問題 17
Version 1.1.0 (リリース日：2024/11/28) 18
1 機能追加 19
1-1 ターゲット接続時のアカウント情報保存 19
1-2 SSH 公開鍵認証 20
1-3 ユーザーセッションログ画面に削除アイコンを追加 20
1-4 接続中セッションの説明から対象のターゲットを検索する機能 20
1-5 ターゲット・ターゲットディレクトリの移動機能 21
1-6 HTTPS アクセス時の証明書インポート機能 21
1-7 CSV ファイルによる設定情報のインポート、エクスポート機能 22
1-8 IPv4 リンクローカル機能 22
2 仕様変更 22
2-1 GUI 22
2-2 CLI 22
2-3 SSH 暗号アルゴリズム 23

2-4 SmartJumper のセッション情報周りの変更 25
2-5 smartjumper コマンドの仕様変更 25
2-6 smartjumper コマンド実行時の条件の仕様変更 25
2-7 SmartJumper の sshconfig に関する変更 25
3 不具合修正 25
3-1 DB ヘルスチェックの修正 25
3-2 IPv6 の無効環境での動作 26
3-3 ルートディレクトリ直下だと「TargetDirectory と Target 名の重複」していても作れてしまう不具合を修正しました 26
3-4 telnet 接続時のウィンドウサイズ 26
3-5 長期間のログをダウンロードに失敗 26

Version 2.1.0　(リリース日：2026/10/30)

Version 2.1.0 では以下の機能追加、仕様変更、不具合修正を行いました。

1　機能追加

1-1　RADIUS 認証対応

SmartJumper へログインする際の認証方法に RADIUS 認証を追加しました。
システム設定/認証プロバイダーから、RADIUS 認証の設定を追加することが可能です。

RADIUS サーバーが応答した属性と値を基に、ユーザーとアクセスグループを紐づけることが可能です。
設定した内容は、認証プロバイダーの編集画面から実際に認証を試して確認できます。

1-2　TACACS+認証対応

SmartJumper へログインする際の認証方法に TACACS+認証を追加しました。
システム設定/認証プロバイダーから、TACACS+認証の設定を追加することが可能です。

TACACS+サーバーが応答した属性と値を基に、ユーザーとアクセスグループを紐づけることが可能です。
設定した内容は、認証プロバイダーの編集画面から実際に認証を試して確認できます。

1-3　認証サーバーの冗長化

認証プロバイダーに、認証サーバーが応答しない場合に切り替えて使用するセカンダリーサーバーを設定できるようになりました。
LDAP、RADIUS、TACACS+のいずれでも設定できます。

通常使用するサーバーをプライマリーサーバー、切り替え先をセカンダリーサーバーと呼びます。
プライマリーサーバーから認証結果が得られない場合にのみセカンダリーサーバーを使用します。
利用者のパスワードが誤っている場合は、認証結果が得られているため切り替わりません。

1-4　ターゲットの認証情報の管理

ターゲットへの接続に使用するログイン ID とパスワード（または SSH プライベートキー）を、認証情報として登録できるようになりました。
登録した認証情報は個人設定/ターゲット認証から確認、編集、削除ができます。

認証情報は他の利用者へ共有することもできます。
共有された認証情報は、ターゲットの接続メニューから選択して使用できます。
共有の設定は特権ユーザーのみが行えます。

認証情報を使用できるユーザーとターゲットは、タグで制限することができます。

Version 2.0.0、2.0.1 からバージョンアップした場合、保存済みの SSH プライベートキーと、ターゲットごとに保存していた認証情報は、バージョンアップ時に自動で移行されます。
・SSH プライベートキーは、同じ名前の SSH プライベートキーのシークレットになります。
・ターゲットごとに保存していた認証情報は、「ターゲットログイン ID@ターゲット名」の名前の認証情報になります。パスワードを保存していたものは、同じ名前のパスワードのシークレットも作成されます。
・移行した認証情報は共有されず、タグによる制限も設定されていません。元のターゲットの接続メニューを開くと、移行した認証情報が選択された状態で表示されます。

1-5　タグ機能

ユーザーとターゲットを分類するためのタグを追加しました。
システム設定/ユーザータグ、システム設定/ターゲットタグから作成できます。

作成したタグは、ユーザー管理画面やターゲット管理画面から付与できます。
一覧で複数を選択してまとめて付与、解除することもできます。

付与したタグは、ホーム画面やターゲット管理画面での絞り込みに利用できます。
また、認証情報を使用できるユーザーとターゲットの制限にも利用できます。

1-6　オンラインバックアップ

SmartJumper を停止せずにバックアップを取得できるようになりました。

起動中にバックアップを取得する場合は、SmartJumper の起動から 3 時間以上、かつログの削除から 3 時間以上が経過している必要があります。

1-7　監査ログの外部 SYSLOG 送信

監査ログを外部の SYSLOG サーバーへ送信できるようになりました。
UDP で、監査ログ 1 行につき RFC 5424 形式のメッセージを 1 通送信します。

設定は以下のコマンドで行います。
・smartjumper config syslog show

　現在の設定を表示します。
・smartjumper config syslog enable / disable

　送信を開始、停止します。
・smartjumper config syslog server1 set address <ホスト [: ポート番号]>

　送信先を設定します。ポート番号を省略した場合は 514 を使用します。
送信先は 2 つまで設定でき、両方に同じ内容を送信します。

1-8　監査ログの記録対象の拡充

監査ログに記録するイベントを拡充しました。
以下のカテゴリーを追加しています。
・userSession

　ターゲットへの接続の開始、終了を記録します。
・systemSetting

　CLI アクセス時のデフォルトの認証プロバイダーの変更、監査ログの外部 SYSLOG 送信設定の変更を記録します。
あわせて、シークレットの追加、変更、削除と、タグの追加、変更、削除および一括付与、解除も記録するようにしました。
また、認証に失敗した場合に、入力されたログイン ID を記録するようにしました。

2 仕様変更

2-1 smartjumper コマンドの体系の変更

設定に関するコマンドを、smartjumper config の配下にまとめました。
以下の変更前のコマンドは削除しました。
変更後のコマンドを使用してください。

変更前 （Version 2.1.0 では使用できません）	変更後
smartjumper authprovider cli-default（認証プロバイダーの一覧の表示）	smartjumper config authprovider show cli-default（デフォルトの認証プロバイダーの表示）
smartjumper authprovider cli-default <認証プロバイダー名>（設定）	smartjumper config authprovider set cli-default <認証プロバイダー名>
smartjumper sshconfig apply <ファイル名>	smartjumper config sshconfig apply <ファイル名>
smartjumper sshconfig init	smartjumper config sshconfig init
smartjumper sshconfig show	smartjumper config sshconfig show

上記以外の smartjumper コマンドは変更していません。

2-2 一覧のページごとの表示数の設定

一覧に 1 ページあたり何件を表示するかの選択肢を、利用者ごとに設定できるようになりました。
個人設定/一般のアクセシビリティーから、カンマ区切りで指定します。
それぞれの値は 1000 以下で、4 個まで指定できます。
指定した値は小さい順に並べて選択肢となり、一覧を開いた時点では最も小さい値で表示されます。
省略した場合は、一覧のエントリー数に応じて自動で調整された選択肢が使用されます。
設定は、ターゲットセッションログ一覧を含め、表示数の選択欄があるすべての一覧に適用されます。

2-3 稼働中のバージョンの表示

システム設定/一般に、稼働している SmartJumper のバージョンを表示するようにしました。

2-4 ターミナルのスクロールバッファー量の拡張

GUI の端末エミュレーターでさかのぼれる行数を、環境設定ファイルで指定できるようにしました。
TERMINAL_SCROLLBACK に 1 以上の整数を指定します。初期値は 10000 です。

2-5　ターゲット検索の迅速化

ホーム画面とターゲット管理画面の検索を、ターゲットディレクトリーの階層を辿らずに目的のターゲットへ到達できるように変更しました。
・検索は、選択中のターゲットディレクトリーの配下をすべて対象とします。
・検索結果は、ターゲットディレクトリーではなくターゲットの一覧として表示します。
・検索結果の各ターゲットには、そのターゲットが属するターゲットディレクトリーのパスを表示します。
・検索結果の上部に、条件に一致したターゲットディレクトリーとターゲットの件数を表示します。

2-6　LDAP 認証の設定とエラー表示の改善

LDAP 認証プロバイダーの設定と、LDAP 認証時および LDAP 設定のテストでのエラー表示を改善しました。
・設定時の入力値の検査
Bind DN と Bind Password は、両方を設定するか、両方を未設定にする必要があるようにしました。どちらか一方のみを設定して保存することはできません。
Bind DN を未設定にして保存した場合は、保存済みの Bind Password も削除されます。
バージョンアップ前に Bind DN と Bind Password のどちらか一方のみを設定していた LDAP 認証プロバイダーは、そのまま使用できます。
この LDAP 認証プロバイダーを編集画面で保存する場合は、両方を設定するか、両方を未設定にしてください。

・認証時のエラー表示
LDAP サーバーでの認証には成功したものの、その後のユーザーの自動作成に失敗した場合に、ID やパスワードの誤りとは区別したメッセージを表示するようにしました。
登録済みユーザー数がライセンスの上限に達している場合が該当します。

・LDAP 設定のテストの表示
LDAP 設定のテストで、ログイン ID のユーザーが見つからない場合に加えて、パスワードが正しくない場合も「エントリーが見つかりません」と表示するようにしました。
「Invalid Credentials」は、Bind DN と Bind Password による認証に失敗した場合に表示されます。

2-7　使用中のターゲット・ユーザーの削除時のエラーメッセージの改善

接続中のターゲットやユーザーを削除しようとした場合に表示されるエラーメッセージを、内容が分かるように改善しました。

2-8　CSV インポート時のエラーメッセージの改善

smartjumper config import で CSV ファイルを取り込む際に、行番号、CSV の種別、列名、および値が満たさなかった条件を表示するようにしました。
--dry を指定した場合は、取り込みを行わずにファイル全体のすべての行をチェックし、エラーとなる行をまとめて出力します。
--strict を指定しない場合は、エラーとなった行を読み飛ばして残りの行を取り込みます。
あわせて、取り込みの進捗表示が端末の幅を超える場合に異常終了する不具合を修正しました。

2-9　アクセスグループ割り当てルールの値の必須化

システム設定/認証プロバイダーのアクセスグループ割り当てルールの追加、編集画面で、値を必須にしました。
空欄のまま保存することはできません。
これまでは、値を空欄にすると、値を問わずに一致するルールになっていました。
値を問わずに一致させる場合は、値に「*」を指定します。
バージョンアップ前に値を空欄で作成したルールは、そのまま値を問わずに一致します。
このルールを編集画面で保存する場合は、値に「*」を指定してください。

2-10　バージョンアップ時の監査ログの保持

バージョンアップのインストールで、監査ログのファイルを残すようにしました。
従来は、バージョンアップの際に監査ログが削除されていました。
残した監査ログには、バージョンアップ後の記録が続けて書き込まれます。

2-11　画面の日本語表記の統一

画面の日本語表記を、取扱説明書などの文書と同じ表記にそろえました。
・ターゲットディレクトリ、サブディレクトリ → ターゲットディレクトリー、サブディレクトリー
・接続ウィンドウ → 接続ウインドウ（新規セッションフォームの説明文）
英語表示の文言、smartjumper コマンドの出力、監査ログの文言は変更していません。

2-12　ターゲットセッションログ一覧の全選択

ターゲットセッションログ一覧の見出し行にチェックボックスを追加し、表示中のページのログをまとめて選択、解除できるようにしました。
チェックボックスは管理者にのみ表示されます。
接続中、削除中のログは選択されません。
選択はページを移っても保持され、「選択したログを削除」では他のページで選択したログも削除されます。
すべての選択を解除するには「リセット」を押します。

3 不具合修正

3-1 接続フォームで前回使用の認証情報が反映されない問題

ターゲットの接続フォームを開き直した 1 回目に、前回そのターゲットで使用した認証情報が選択されない問題を修正しました。

3-2 「プレーンテキスト（制御コードなし）」のログのダウンロードに失敗する問題

ターゲットセッションのログを「プレーンテキスト（制御コードなし）」でダウンロードすると、失敗することがある問題を修正しました。
ターゲットから短い時間に大量の出力があったターゲットセッションで発生していました。
ログ自体は記録されているため、前のバージョンでダウンロードに失敗したログも、バージョンアップ後はダウンロードできます。

3-3 ツリー表示でターゲットディレクトリー名が隠れる問題

ターゲットディレクトリーのツリービューで、名前が長い場合に名前が隠れてしまう問題を修正しました。
画面左側のツリービューと右側のリストの境目をドラッグすると、ツリービューの幅を変えられます。
名前が隠れる場合は、ツリービューの幅を広げてください。

3-4 管理者が自分自身を削除した際のデータベースの不整合

管理者がログイン中に自分自身を削除した場合に、データベースの内容が不整合となる問題を修正しました。
自分自身を削除した場合は、ユーザー管理画面に遷移せずサインアウトするようにしました。

3-5 確認画面の確定ボタンの表記

編集の確認画面で、確定ボタンの表記が適切でなかった問題を修正しました。

3-6 監査ログの認証プロバイダーの記録の統一

監査ログで、利用者を特定しない事象のログイン ID が空の場合に、認証プロバイダーが「Local」と記録されるものと空のものとで統一されていなかった問題を修正しました。
ログイン ID が空の事象では、認証プロバイダーも空で記録するようにしました。

3-7　ターゲットセッション詳細画面のレイアウト崩れ

ターゲットセッションの詳細画面で、ダウンロードボタンの表示が崩れる問題を修正しました。

Version 2.0.1　(リリース日：2025/12/19)

Version 2.0.1 では以下の脆弱性対応を行いました。

1　脆弱性対応

1-1　　脆弱性対応（React / Next.js：Remote Code Execution　他）

CVE-2025-55182 / CVE-2025-66478 (React2Shell)
CVE-2025-67779
CVE-2025-55183

上記脆弱性の対応を行いました。

Version 2.0.0　(リリース日：2025/11/12)

Version 2.0.0 では以下の機能追加、仕様変更、不具合修正を行いました。

1　機能追加

1-1　　LDAP 認証機能

SmartJumper へログインする際の認証方法に LDAP 認証を追加しました。
システム設定/認証プロバイダーから、LDAP 認証の設定を追加することが可能です。



LDAP サーバーに登録されている属性と値を基に、ユーザーとアクセスグループを紐づけることが可能です。
割り当てルールを作成しておくことで、当該アクセスグループ内のターゲット装置へアクセス可能となります。

1-2　監査ログ機能

セキュリティ強化の為、以下のログを csv ファイルで取得できるようになりました。
・SmartJumper の認証に関するログ
・SmartJumper の運用に関するログ



1-3　ターゲット接続時の ssh 公開鍵認証

ターゲットに接続する際に ssh 公開鍵認証を選択できるようになりました。





1-4　制御コードが無いログのダウンロード機能

オペレーションログを制御コード無しのプレーンテキストでダウンロードできるようになりました。

1-5　ユーザーセッションのログを出力する機能

以下のコマンドで、ユーザーセッションのログを出力できるようになりました。
オプションを指定する事で、ファイル名を指定して出力することも可能です。
・smartjumper log list csv

SmartJumper に保存されているユーザーセッションログを csv 形式で出力します。
・smartjumper log list table

SmartJumper に保存されているユーザーセッションログを table 形式で出力します。

1-6　SmartJumper 用 IP アドレスプールをユーザー指定可能にする機能

SmartJumper 起動時に Docker が自動的に割り当てる SmartJumper 用 IP アドレスプールが既存のホスト側ルーティングと干渉することを避けるため、割り当てられる範囲を明示的に指定できるよう IPv4 サブネット設定を追加しました。

2　仕様変更

2-1　GUI 関連の機能改善

GUI 画面での操作仕様を変更致しました。
・個人設定の表示画面を変更しました
・ログ検索画面の検索条件の「リセット」ボタンを「クリア」に名称を変更しました

2-2　SmartJumper アクセス時のポート番号指定

SmartJumper へのアクセス時に利用する HTTPS / SSH のポート番号を、それぞれ 443/22 に設定可能としました。

2-3　タイムゾーンのマルチリージョンの対応

ターゲットセッションのタイムゾーンを指定できるようになりました。
IANA タイムゾーンデータベースに登録されているタイムゾーン名を指定してください。
初期値は Asia/Tokyo です。

2-4　ターゲット接続アイドルタイムの変更

ターゲットセッションのアイドルタイムアウトの値を、1〜1440 分の範囲で分単位で変更できるようになりました。
初期値は 60 分です。

2-5　SSH 公開鍵認証の仕様変更

SmartJumper に SSH 接続する際、公開鍵認証に失敗するとパスワードプロンプトが出てくる（パスワード認証にフォールバックする）ように変更しました。

2-6　smartjumper コマンド実行時の条件の仕様変更

smartjumper コマンドを実行する場合、全てのコマンドを管理者権限での実行に変更しました。

2-7　アクセスグループの編集条件の仕様変更

ユーザーのセッション接続状態に関わらず、当該ユーザーのアクセスグループへの追加/削除を可能としました。

2-8　ターゲット作成時の最大セッション数

ターゲットを作成する際の最大ターゲットセッション数のデフォルト値を 5 に変更しました。

2-9　サポート外の鍵登録を防止

ターゲット接続用の SSH 公開鍵を CLI で登録する際に、サポート外の鍵登録がエラーとなるように変更しました。

3 不具合修正

3-1 Telnet 接続時にログイン ID が自動で入らない問題

ターゲットへの Telnet 接続をする際に、一部ターゲットにログイン ID が自動で入らない事がある問題を修正しました。

3-2 CLI 接続セッションの有効期限切れでのログアウト

CLI 接続セッションの有効期限が切れた場合に、ライセンスインストール済みの環境であっても、no valid license のようなライセンスエラーが出ていたため、再ログインを促す文言を出してログアウトするように修正しました。

3-3 ユーザー権限でのログ削除

ユーザー権限でターゲットセッションのログを削除出来てしまう問題を修正しました。

3-4 ホーム画面の件数表示

SmartJumper ログイン後のホーム画面にて、検索バーの総件数 (〜件から検索する) に表示されるターゲット件数の値が、アクセスグループを加味するように修正しました。

3-5 SSH 公開鍵認証による接続が機能しなくなる問題

SmartJumper へ SSH 公開鍵認証で接続し、1 日以上経過した状態で他の SSH 公開鍵接続が発生するより前にブラウザで接続をすると、SSH 公開鍵接続が利用できなくなる問題を修正しました。

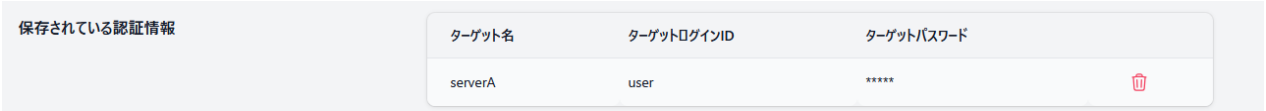
Version 1.1.0　(リリース日：2024/11/28)

Version 1.1.0 では以下の機能追加、仕様変更、不具合修正を行いました。

1　機能追加

1-1　　ターゲット接続時のアカウント情報保存

ターゲットへ接続する際に入力するアカウント情報 (ログイン ID、パスワード) を SmartJumper に保存できるようになりました。「このアカウントを保存する」にチェックを入れて接続した場合に保存され、次回以降の接続でアカウントの入力が不要になります。
自動入力される情報を削除し、別のアカウントを入力して接続すると情報が更新されます。
アカウントの保存は HTTPS、SSH のどちらで接続した場合でも利用可能です。



SmartJumper にログインするユーザーに対して、ターゲットごとに 1 つのアカウントが保存され、各ユーザーの個人設定ページで確認および削除を行うことができます。
保存済みアカウントの確認、削除は HTTPS 接続のみ対応しています。



1-2　SSH 公開鍵認証

ユーザーが SmartJumper に SSH 接続する際の公開鍵認証に対応しました。
サポートする公開鍵アルゴリズムは下記の通りです。
・ecdsa-sha2-nistp256
・ecdsa-sha2-nistp384
・ecdsa-sha2-nistp521
・ssh-ed25519

1-3　ユーザーセッションログ画面に削除アイコンを追加

ユーザーセッションのログ画面にログを削除するためのアイコンを追加しました。
削除ボタンから該当のターゲットセッションのログを削除する事ができます。

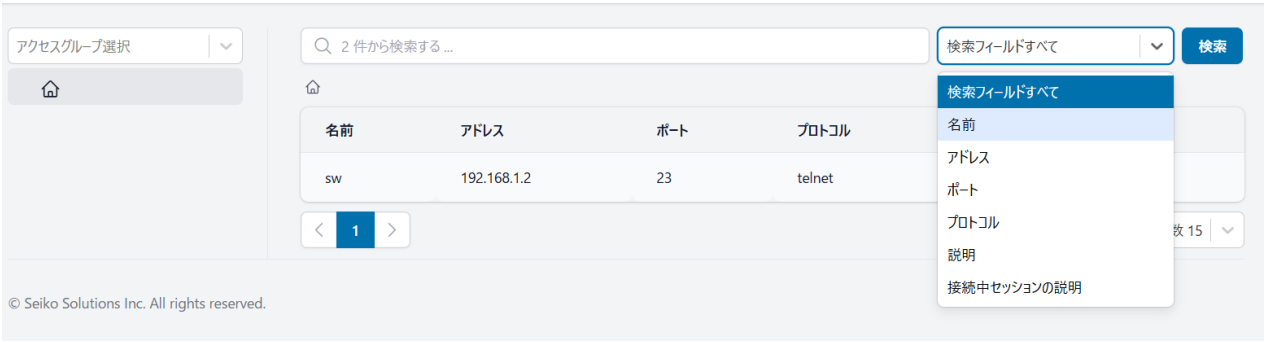
1-4　接続中セッションの説明から対象のターゲットを検索する機能

接続中のターゲットセッションを、接続時に入力した説明から検索できるようになりました。



1-5　ターゲット・ターゲットディレクトリの移動機能

ターゲット管理画面からターゲット、ターゲットディレクトリを別のディレクトリへ移動できるようになりました。



図の太枠内の移動フォルダのアイコンをクリックした後に移動先のディレクトリを選択し移動できるようになりました。



ただし移動元と移動先が同じ場合は移動きません（移動元＝移動先）

1-6　HTTPS アクセス時の証明書インポート機能

HTTPS アクセス時に使用する SSL 証明書に、v1.0.0 では Smart Jumper の自己署名された証明書のみをサポートしていましたが v1.1.0 ではユーザーが指定する任意の証明書を使うことができるようになりました。

1-7　CSV ファイルによる設定情報のインポート、エクスポート機能

v1.0.0 で SmartGS からの移行のみを目的として実装されましたが、v1.1.0 では SmartJumper の config を CSV ファイルで保存、追加、編集する事を目的に機能を追加と変更しています。
主な追加変更の点としては以下となります。
・config を export する機能を追加
・config が入った状態でも import が可能
・export した csv ファイルに追加、編集して import が可能
※注意点として csv ファイルに記載されているユーザー、ターゲットが接続していない状況で import をして下さい。

1-8　IPv4 リンクローカル機能

IPv4 リンクローカルアドレスのターゲットへの接続に対応しました。
本機能はデフォルトでは無効となっており、SmartJumper にリンクローカルアドレスを設定することで有効となります。

2　仕様変更

2-1　GUI

V1.1.0 では GUI 画面での操作の仕様を変更・改善致しました。
・サインインしているユーザーのパスワードを変更する際に現在のパスワードも入力するよう変更しました。
・ターゲット、ユーザー、アクセスグループの作成、編集画面で、関連付ける対象を選択した際に、選択後に未選択リストのページを維持するようになりまとめて選択できるように変更しました。
・ユーザーセッションログ画面からターゲットセッションログ画面へ戻った際の、直前のターゲットセッションログの検索条件を引き継ぐよう変更しました。
・ホーム画面、ターゲット管理画面での検索時にすべての検索フィールドを対象にして検索できるよう変更しました。
・各テーブルやリストのデフォルトの並び順を ID 順から名前順へ変更しました。

2-2　CLI

・ターゲット接続時の idle timeout を GUI と同様に 60 分に変更しました。
・list コマンドに<TargetName>オプション追加し、ターゲット検索をできるようにしました。
・<TargetName>をオプション指定する list、detail、connect コマンドにタブ補完機能を追加しました。
・connection 時の description にスペースを許可するように変更しました。

2-3　SSH 暗号アルゴリズム

SSH アルゴリズムを以下指定するように変更しました。

・暗号化アルゴリズム (Ciphers)

アルゴリズム	v1.0.0	v1.1.0
aes128-gcm@openssh.com	○	○
chacha20-poly1305@openssh.com	○	×
aes128-ctr	○	○
aes192-ctr	○	○
aes256-ctr	○	○

・メッセージ認証符号 (MACs)

アルゴリズム	v1.0.0	v1.1.0
hmac-sha2-256-etm@openssh.com	○	○
hmac-sha2-512-etm@openssh.com	○	○
hmac-sha2-256	○	○
hmac-sha2-512	○	○
hmac-sha1	○	○
hmac-sha1-96	○	×

・鍵交換アルゴリズム (KeyExchanges)

アルゴリズム	v1.0.0	v1.1.0
curve25519-sha256	○	○
curve25519-sha256@libssh.org	○	○
ecdh-sha2-nistp256	○	○
ecdh-sha2-nistp384	○	○
ecdh-sha2-nistp521	○	○
diffie-hellman-group14-sha256	○	○
diffie-hellman-group14-sha1	○	×

・ホスト鍵アルゴリズム (HostKeyAlgorithms)

アルゴリズム	v1.0.0	v1.1.0
ssh-rsa	○	×
rsa-sha2-256	○	○
rsa-sha2-512	○	○
ecdsa-sha2-nistp521	×	○
ssh-ed25519	×	○

2-4　SmartJumper のセッション情報周りの変更

・SmartJumper の再起動のたびに HTTPS のセッションがリセットされていたが、前回起動時の情報を保存し、リセットにならないように変更しました。
・以下のコマンドを打つことで SmartJumper にアクセスする際のセッション情報をリセットする事ができます。

```
$ smartjumper secret reset
```

2-5　smartjumper コマンドの仕様変更

SmartJumper のバックアップ、リストア、初期化コマンドの仕様を変更しました。
・バックアップ

```
$ smartjumper backup
```

・リストア

```
$ smartjumper init
```

・バックアップ

```
$ smartjumper restore
```

・ログの消去

```
$ smartjumper log delete all
```

2-6　smartjumper コマンド実行時の条件の仕様変更

・smartjumper config/log のコマンドを実行する場合は admin 権限のみ実行可能に変更しました
・import する際は有効なライセンスを適用しないと実行できないように変更しました

2-7　SmartJumper の sshconfig に関する変更

ターゲットへ接続する際の sshconfig のファイルを指定した後に、再起動しても設定を維持するようにしました。

3　不具合修正

3-1　DB ヘルスチェックの修正

jumper のインストール時の DB ヘルスチェックで mysql のアクセスエラーになっていたものを修正しました。

3-2　IPv6 の無効環境での動作

ホスト OS で IPv6 が無効の場合、SmartJumper の起動が失敗する不具合を修正しました。

3-3　ルートディレクトリ直下だと「TargetDirectory と Target 名の重複」していても作れてしまう不具合を修正しました

ルートディレクトリ直下で、ターゲットディレクトリとターゲットの名前が重複していても作成できてしまう不具合を修正しました。

3-4　telnet 接続時のウィンドウサイズ

telnet 接続時にユーザー側の端末でウィンドウのサイズを変更した際にターゲットの端末は変更したウィンドウサイズの内部情報と同期するように修正しました。

3-5　長期間のログをダウンロードに失敗

ターゲットでのオペレーション（またはログに書かれるコマンド出力など）の間隔が長いログのダウンロードに失敗する場合がある不具合を修正しました。